

審議会会議録

審議会等の 名称	第 2 回 瑞穂市総合計画策定審議会
開催日時	令和 7 年 3 月 1 4 日（金曜日） 午後 6 時 0 0 分から午後 8 時 1 5 分まで
開催場所	ココロかさなる C C N センター 5 階 第 4 会議室
議題	報 告 ・人口ビジョン案における合計特殊出生率の設定についての各委員の意見結果と人口ビジョン（案）を含む第 3 期瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について（資料①・②・③） 議 事 ・第 3 次総合計画の基本構想案（一部分）について（資料⑤・⑥・⑦）（各ワークショップの結果の報告含む）（資料④）
出席委員・ 欠席委員	出席委員 1 4 名 曾我部雄樹会長、溝川哲哉副会長、赤尾達也委員、新井正信委員、宇野秀一委員、加木屋加緒里委員、川端光昭委員、高田里美委員、竹林成熙委員、中林由紀子委員、廣瀬啓司委員、松原哲委員、馬淵晃委員、若曾根明仁委員 欠席委員 6 名 泉浩資委員、亀山成高委員、久富和浩委員、戸田一文委員、成瀬幸太郎委員、吉田哲史委員
公開・非公開 の区分 (非公開理由)	公 開 ・ 非 公 開
傍聴人数	0 人
審議の概要	1. 開会 会議成立の宣言 【事務局】 委員総数 2 0 名に対し過半数を超える 1 4 名の出席があり、瑞穂市附属機関設置条例第 8 条第 1 項の規定に基づき会議が成立していることを宣言した。 （以下会長より議事進行）

2. 報告

「人口ビジョン案における合計特殊出生率の設定についての各委員の意見結果と人口ビジョン（案）を含む第3期瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」について

【会長】

事務局に対し資料の説明を求めた。

【事務局】

資料①～③について説明を行った。

【会長】

担当課の説明について、各委員に対し質問・意見を求めた。

【A委員】

資料⑤の瑞穂市第3次総合計画の骨子案P.12に財政状況が記載されている。歳出において扶助費が50億円を超える支出が続いているとある。扶助費とは児童福祉費、生活保護費、社会福祉費の内訳である。ネットで調べると神奈川県川崎市では、扶助費のうち児童福祉費を増やして合計特殊出生率を上げるという取組を進めている。瑞穂市でもそのような意味で扶助費の支出が多いのかと感じた。前回会議では合計特殊出生率を2.07とすることが高すぎるということで1.85まで上げることで了承されたが、このあたりの整合について説明を伺う。

【事務局】

合計特殊出生率の設定について、2.07は目標が高すぎて非現実的との意見があり、庁内及び委員の意見を踏まえて1.85という現実的な数値に再設定した。ただ、現状値からすれば1.85も決して低い数値ではないと考えている。

【A委員】

予算はかなりの額を付けているのに目標値を下げるということに違和感を覚えた。保育所について希望の保育所に入れない状況もあると聞く。

【事務局】

手持ち資料がなく正確なことは分からない。

【B委員】

人口ビジョンで目標人口を2050年に54,000人以上という設定をされた。現在、下水道工事などインフラ整備をしているが、このあたりの効果も含めて推計しているのか。商業施設、工業団地、住宅地ができれば、人数が少ない小学校も人口増で増えてくると思う。新しい人たちがどんどん入って、子育てしやすく、住みやすい町になると思う。

【事務局】

今回は下水道工事など、委員の意見にあったような効果を見込まずに推計している。10年前に推計した際は生津地区の工場跡地や犀川地区の大規模な住宅開発があったためそれを加味した人口推計なども行った。今回については下水道工事などが人口増に結びつくかは不明であるし、都市計画図が変わることもないため見込んでいない。

3. 議事

第3次総合計画の基本構想案（一部分）について（各ワークショップの結果の報告を含む）

【曾我部会長】

事務局に対し資料の説明を求めた。

【事務局】

資料④と⑤の一部について説明を行った。

【曾我部会長】

事務局の説明について、各委員に対し質問・意見を求めた。

【C委員】

ウェルビーイング指標のところが分かりにくい。デジタル庁が推進しているのは理解するが、ある程度具体的な項目でないとぼやってしまう。記載されるのは構わないが、分析が難しいと思うので、市の取組につながるようにしていただければと思う。シビックプライドについて、キャッチコピーなどの広告を積極的にしている市町もある。瑞穂市ももっとPRすればどうか。

【事務局】

ウェルビーイング指標について、委員の意見のとおり、現時点の案ではウェルビーイング指標がどのようにつながるかは分かりにくいと思う。この後に展開される基本計画で市の取組が見えてくればと思う。ウェルビーイング指標のうち主観指標については、今回の調査におい

て全国共通の50設問の回答から指標化したものである。現在、全国で調査されており、ホームページで「ウェルビーイング指標」と検索すれば、他の自治体の結果も見ることができる。瑞穂市がどういう部分が足りていて、どの部分が足りないのかが可視化できるメリットを生かしたい。

シビックプライドについて、都市部へのPR、パンフレット等による広報を行っている。東京圏からだけでなく中京圏からの転入にも力を入れており、瑞穂市の良さをPRしている。また、若者をターゲットとしてインスタグラム等のSNSによる情報発信を検討している。奈良県の生駒市を視察したが、生駒市では市民から市の情報を発信しているという取組を見てきたので、参考としたい。

【D委員】

ワークショップについて、当初500名に案内とあり、結果として12名しか参加していない。参加者が少ないと正確性に欠けるという面がある。もっと参加者が多かった方がよかったのではないか。また、第3次計画の説明があったが、第2次計画と比べてみたが、あまり変わっていないように思う。どの点が変わったのか説明してほしい。

【事務局】

ワークショップ自体は参加想定を20～30名としていた。案内した500名については無作為抽出した。参加者にはお礼でかきりん振興券を1千円お渡しすることとしたが参加には結びつかなかった。第2次計画との違いについては、総合計画ということで作りが似通ってくるところは仕方ないのかと考えている。市の現状、意識調査、市の課題等、項目が似ているが内容は異なる。

【D委員】

市民の意見や課題は2次も3次も4次も変わらないのかなと想定するが、市独自の取組などは計画に出てくるのか。

【事務局】

現時点の資料は総合計画の前段部分にあたり、次回以降の資料で出てくる。

【E委員】

穂積駅の無人化、タクシー会社の廃業、岐阜駅前の高層ビルへの誘致に地元大学が関心を示しているなど、民間は民間で動きが出る。市がいくら考えても民間が先に進めば行政が置いていかれるのではないのか。大学などと定期的に情報交換しているのか。情報交換していれば

穂積駅の無人化などはなかったのではないか。このあたりの危機管理のあり方について計画で目標を策定するにしても、万が一こうなったらなどの想定をしたうえで計画を策定できる組織づくりを行えばいいと思う。

【事務局】

民間事業者との協議については、大学とは協定を結んだり、各部署において都度情報交換や共有をしている。穂積駅の無人化やタクシー会社の廃業等については、人材不足など時代の流れもあると思う。調整や対応については市内部の部長会議等で共通認識を持ち、各部署でやれることを行っていくといけないうと思う。

【F 委員】

ワークショップをされているが、中学生のみずほ未来プロジェクトの結果は資料⑤のどのあたりに反映されているのか。

【事務局】

中学生のみずほ未来プロジェクトでは中間発表において中学生が考える市の課題や関心ごとが示された。その結果は、この後に説明する「まちの将来像」にそのエッセンスを反映させていきたいと考えている。

【F 委員】

ウェルビーイング指標の基となった市民アンケートについて回答者の年齢構成などが、市の実際の人口構成と合致するのか。合致しないようであればウェルビーイング指標を深掘しても意味がないように感じる。

【事務局】

資料⑤のP. 15の下グラフを見ると、年齢層別の回答者数があるが、おおむね市の人口構成に沿った回答者数となっているのではないかとと思う。

【G 委員】

中学生の「みずほ未来プロジェクト」については数年前からの取組であり、当初はこどもと先生だけの取り組みだったと思うが、市の職員も参加いただき丁寧に意見を拾っていただいていると感じた。市民ワークショップについては12名ということで残念に思う。私も他のワークショップに一般市民として参加したことがあるが、自治会長など役職者の方がおられて場違いかなと感じた。市民が参加しづらいのは

何故だと考えるか。

【事務局】

中学生が取り組む「みずほ未来プロジェクト」について、市の職員が出前講座として説明したり、発表の際には市長をはじめ関係部署の職員が出席して意見を伺っている。市民ワークショップについて、無作為抽出で参加募集を行ったため参加された方には、参加する動機づけの一つとして振興券を付けたが、他市事例も踏まえると拘束時間2時間で1千円というのが少なかったかもしれない。

【曾我部会長】

ウェルビーイング指標について客観指標はオープンデータから作成されたと説明があったが、市のオープンデータはどのくらいあるのか。

【事務局】

ウェルビーイング指標の客観指標については国のデジタル庁が全国のオープンデータをもとに自治体ごとに作成したものであって、市がオープンにしているデータで作成されたものではないので了承いただきたい。

【曾我部会長】

事務局に対し資料の説明を求めた。

【事務局】

資料⑤の一部、資料⑥、⑦について説明を行った。

【曾我部会長】

事務局の説明及び事務局から示されたまちの将来像の案について、各委員に対し質問・意見を求めた。

【H委員】

まちの将来像にカタカナやアルファベットなど新しい言葉で注釈が必要なものを使うのは良くないと思う。

【I委員】

私も同意見で、ウェルビーイングという言葉は特に高齢者にはわからないと思う。次に資料⑦の3つの案だが、瑞穂市に「都市」というイメージはない。「都市」と言えば名古屋などをイメージする。これまで「まち」で来ているので馴染まない。

【事務局】

「まち」も検討したが事務局案としては「都市」とした。「まち」については検討する。

【Ｊ委員】

ウェルビーイングという言葉調べてみた。誰が見ても分かるように、また短い方がいいと思う。こどもが少なくなっているが「誰もが」というところで案１がいいと感じた。

【Ｅ委員】

「こども」とは何歳までを想定しているか。

【事務局】

０～１８歳までを想定している。

【Ｂ委員】

第２次計画の施策の進捗が委員にはわかっていないと思う。市の取組の現状を説明していただき、第３次計画の取組につなげてほしいと思う。

【事務局】

本日のこの会議は総合計画「策定」審議会だが、当審議会の委員には総合計画等「評価」審議会も兼務していただいている。評価審議会において毎年総合計画の取り組み状況を説明している。ただ毎年全ての施策を説明していないため、現在の委員には一部分の取り組み状況しか説明されていない。

【事務局】

本日の意見では「都市」に違和感があるということなので「まち」に変更するかは検討したい。

【Ｋ委員】

市民意識調査はいつ実施されたか。

【事務局】

令和６年８月に実施した。

【Ｅ委員】

資料⑦のまちの将来像の案１では「こども」から始まっているが、市民目線からすると「こども」に予算が付くと感じる。

【事務局】

本計画が10年計画であり、10年後にはこどもも大人になっているということを見据えた計画となっている。予算としては毎年度異なるため何とも言えない。

【E委員】

「こども」がまちの将来像の最初に出てくると市の予算配分が「こども」にいくと感ずるところがあるのは仕方ないのか。もう少し工夫してはどうか。

【C委員】

「こどもが輝き」とくると、予算の有無は別として市の取組が子育て支援がメインになるのかなというイメージにはなる。

【事務局】

市の「こどもまんなか」の考えに基づき予算が付くことはあると思う。一方、令和7年度の予算においても高齢者へのタクシー助成の拡充など幅広く予算を付ける予定である。また、防災などの面からも予算を付けている。案1であれば「こども」ではなく「誰もが」を最初に持ってくるやり方も手法としてはある。

【E委員】

我々は今話を聞いているから分かるが、まちの将来像を見て子育て施策の手厚さを期待しながら転入してきた方が市に実際住んだ際に期待外れとならないよう、適切な表現を検討した方がよいのではないかなと思う。

【I委員】

私は「こども」が最初にくるから予算が付くとは思わない。他市と比べて個性のあるキャッチコピーでないといけない。「こども」とくるのは良いと思う。

【K委員】

人口ビジョンで合計特出生率を上げるということは子育て支援に予算が付くものと感じた。

【事務局】

本日、委員から頂戴した意見を持ち帰って、事務局としてあらためて検討したい。ほかに意見があれば伺いたい。

【D委員】

「快適」という言葉があるが「快適」という言葉は、今はあまり使わないように思うので検討してほしい。

【F委員】

案1でいいように思うが、「まち」の方がやわらかく良いと思った。「安心」だけでなく「安全・安心」とすればいいとも思った。

【J委員】

案1の「誰もが笑顔あふれる」がとても良いと思う。

【事務局】

「都市」か「まち」か、いずれが良いかを伺えればと思うが、本日の意見を聞いていると「まち」の方がいいのかなと考える。「快適」についても検討する。

【曾我部会長】

「都市」はいかがか。（挙手1名）

「街」はいかがか。（挙手4名）

「まち」はいかがか。（挙手11名）

※良いと思う案に複数回挙手しても良いとの条件で実施

この結果を踏まえて事務局で検討してほしい。

【B委員】

「安心」だけではいけないのではないか。「安心・安全」とかではないか。

【事務局】

安全も含めて「安心」に集約した。

【C委員】

事務局案の「こども」と「誰もが」の順番を無理に変えて、かえって流れが悪くなるようなら、事務局案を生かしてほしいと思う。

【事務局】

市としては次世代を担う「こども」を最初に持てきたいという思いがある。

「都市」という言葉についても市も20周年を迎えたこと、今後さらに発展していくという意味から「都市」としてみた。ただし本日の委員の

	意見を踏まえて再検討したい。 【Ｌ委員】 各委員から意見のあったサブタイトルも再検討されるのか。 【Ｆ委員】 サブタイトルは無しにしても良いのか。 【事務局】 サブタイトルも含めて再検討する。 【曾我部会長】 事務局が「まちの将来像」を含めた基本構想案について再検討すること で各委員の了承を得た。 ４．閉 会 【溝川副会長】 閉会のあいさつ （終了）
事務局 （担当課）	瑞穂市 企画部 総合政策課 TEL : 058-327-4128 FAX : 058-327-4103 e-mail : sougou@city.mizuho.lg.jp